

# 竹内マツ植樹隊 8年間の記録とこれから

平成25年5月～  
令和3年3月

8年間

発行責任者 竹内マツ植樹隊  
会長 荒井秀行

2021.8月吉日



初代会長



立ちはだかる密林

【位置】竹内西緑地の竹内町に接する部分の緑地（広さ）南北方向に500m、東西方向に110m、面積約57000㎡

【活動】平成25年5月から開墾に取り掛かり、25年度を第1期整備事業とし、年次的に対象部分の雑木林を開墾・整備・植樹をおこない、7年後の令和2年度の第8期整備事業で一連の整備事業は完了した。8年がかりで57000㎡の雑木林の開墾・整備と7375本の黒マツと38本の桜の苗木の植樹をした。

【年間スケジュール】ボランティア作業は、4月から11月までの8ヶ月作業を行う。整備作業のうち8割は草刈り作業。地盤の整備状況が良く、ある程度の広さがある時は、乗用式草刈機で行う。残りは草払い機と鎌で除草作業を行う。9～10月の間は、開墾・枝おろし・除草作業を行う。11月は植樹祭りや整備を行う。令和元年より小学校の卒業記念植樹として桜の苗木の植樹を実施している。2年間で桜38本植樹済み。

（植樹隊の活動場所と活動実績）

【現在の隊員数】60人

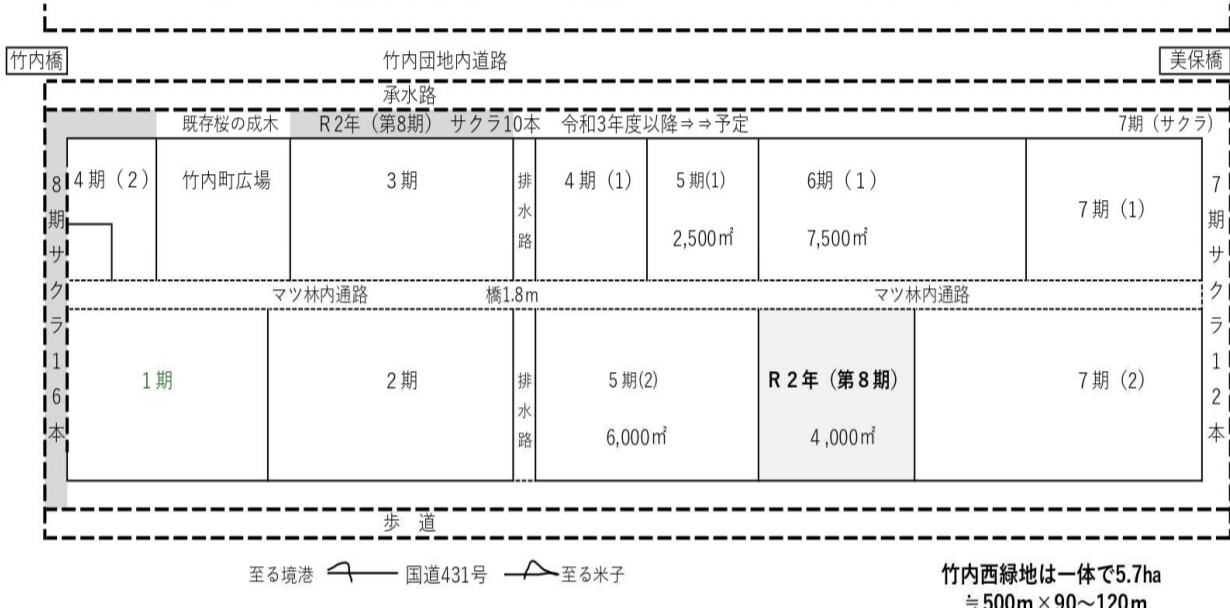
## 竹内まつ植樹隊8年間のあゆみ

（植樹隊設立とその目的）昭和30年代の弓ヶ浜半島は白砂青松の景勝地であった。また、砂浜のあちらこちらで、地引網が行われ、夏は海水浴、魚釣り等子供たちの遊び場であり、楽しい思い出の場所でした。ところが、美しかった松林は、近年の異常気象の影響や細かい虫や塩害・雪害による被害により、松枯れが進み、結果人が入れないような雑木林となってしまった。初代植樹隊長（故）門脇真澄氏は「昭和30年代の美しい松林を子孫の為に残したい」という思いで、同級生や地域の住民の皆様の賛同を頂き「竹内マツ植樹隊」を平成25年5月に結成した。



初代会長 門脇真澄さん

令和2年(第8期) 整備ヶ所4,000㎡  
竹内マツ植樹隊活動区分図(年度別) 25年～31年～令和2年 令和2年12月作成



## 植樹隊年度別活動区分



開墾・整地



開墾・整地



仮払い草刈り



乗用草刈り機で草刈り



カマで苗木回りの草取り



枝下ろし



2020植樹祭



## 団体表彰

(令和2年10月)  
・鳥取県植樹祭 鳥取県  
「美しいモノづくり  
功労者賞」

(令和元年5月)  
・第30回全国「緑の愛護」  
国土交通大臣表彰を受賞



これから竹内マツ植樹隊が目指すもの

（足穂豊さんのコメント）  
当初十分なお手伝いが出来ませんでした。皆さんが真夏の盛り、「我々は大きくなったこの松を見る事は出来ないけど、子孫の為に」と、密林に潜む虫と闘いながら開墾されている姿に、深い感銘を受けました。

（門脇民子さんのコメント）  
最初に植えた松は大きく育ちました。常連で作業に参加される方には感謝&感謝です。私の作業は主に草刈ですが、鎌の切れが悪くなり何度か新しくしました。いつまでもこの松を見る事が出来る様に、元気でいたいですね。

